

PRESS RELEASE

2016年6月21日
株式会社三菱総合研究所

日銀短観（2016年6月調査）予測

株式会社三菱総合研究所（代表取締役社長 大森京太 東京都千代田区永田町二丁目10番3号）では、7月1日（金）に日本銀行より発表される予定の「企業短期経済観測調査（日銀短観）2016年6月調査」の業況判断DIについて予測を行った。

大企業・全産業の業況判断DI	————	+ 11%ポイント（3月調査比 ▲2%ポイント）
同・製造業の業況判断DI	————	+ 4%ポイント（3月調査比 ▲2%ポイント）
同・非製造業の業況判断DI	————	+ 21%ポイント（3月調査比 ▲1%ポイント）

業況判断DI（大企業・全産業）は、+11%ポイント（前回3月調査から▲2%p低下）と3期連続の低下を予想する。消費の不振や円高進行などにより、製造業を中心に業況悪化を見込む。

製造業の業況判断DI（大企業）は、+4%ポイント（前回調査から▲2%p低下）と予測する。素材業種では、新興国での需要減速などが業況悪化要因となる。加工業種は、企業の想定為替レートを上回る円高進行による採算の悪化、新興国向け輸出の低迷、消費の不振、自動車の燃費不正問題の波及などにより業況悪化を予想する。

非製造業の業況判断DI（大企業）は、+21%ポイント（前回調査から▲1%p低下）と予測する。消費の不振、円高進行などに伴うインバウンド需要の伸び鈍化が、小売業や宿泊・飲食サービス業を中心に幅広い業種で業況悪化要因となる。卸売業や運輸業も、低調な製造業の生産活動を映じて業況が弱含むと予想する。

先行きの業況判断DI（大企業）は、製造業は+2%ポイント、非製造業は+20%ポイントとやや悪化を予測する。米国の今後の利上げペースや大統領選の行方、新興国経済の減速度合、資源価格の動向、地政学リスクなど、先行きを見通すことが難しい状況が続いている中、企業のマインド慎重化が続くとみられる。

日銀短観（2016年6月調査）業況判断DI 予測結果

「良い」-「悪い」 単位：%ポイント	実績		予測		
	2015年 12月	2016年 3月	2016年 6月	2016年 9月	
	12月調査 「最近」	3月調査 「最近」	6月調査 「最近」	6月調査 「先行き」	
大企業	全産業	18	13	11	10
	製造業	12	6	4	2
	非製造業	25	22	21	20
中堅企業	全産業	14	12	11	10
	製造業	5	5	4	3
	非製造業	19	17	16	15
中小企業	全産業	3	1	0	▲1
	製造業	0	▲4	▲5	▲6
	非製造業	5	4	3	2

注1：シャドー部分が2016年6月調査の予測値。

注2：「先行き」は、調査時点から3か月後を表す。

資料：実績は日本銀行「企業短期経済観測調査」、予測は三菱総合研究所。

《本件に関するお問合せ先》

株式会社 三菱総合研究所 〒100-8141 東京都千代田区永田町二丁目10番3号

政策・経済研究センター 坂本貴志 米良有加 田中康就

電話：03-6705-6087 FAX：03-5157-2161 E-mail：takashi_sakamoto@mri.co.jp

広報部 上岡・瀬戸口 電話：03-6705-6000 FAX：03-5157-2169 E-mail：media@mri.co.jp

尚、本資料は、内閣府記者クラブ、金融記者クラブに配布致します。